会議報告

第34回東北家畜衛生協議会検討会

「ヨーネ病－新たな対応を考える－」をテーマに、平成18年10月26日～27日、まかど温泉（青森県野辺地町）の大会議場において、標記の検討会が開催された。本会は東北家畜衛生協議会（会長：動物衛生研究所研究管理監（東北担当））と東北支所の共催で、開催地は東北支所と東北６県で持ち回りとし、本年度は東北支所担当の開催であった。本会の運営は東北支所が事務局を担当し、東北６県の代表者と開催県の畜産協会及び東北支所で運営委員会を組織し、テーマや運営方法など必要事項を決定し運営している。本年のテーマは動物衛生の中で今最もホットな問題の一つであるヨーネ病の防疫を取り上げたことから、各県畜産課、家畜保健衛生所をはじめ、大学、動物検疫所、家畜改良センター、東北農研センターなどから108名の参加者を得て盛会となった。特別講演の講師には、農水省消費・安全局動物衛生課塚本大輔氏、当所ヨーネ病研究チーム長森康行を迎え、国のヨーネ病防疫対策検討会の議論を踏まえて策定された新たなヨーネ病防疫対策要領（案）とそれに盛り込まれた診断法の解説、加えてヨーネ病およびその診断法に関する基礎から最新情報までを含めた講演が行われた。２日目には各県からのヨーネ病に関する話題提供、フロアからの質問事項を含めた総合討議が行われ、活発な意見交換、情報収集の場となった。また、トピックスとして残留基準値を超える合成抗菌剤が検出された豚肉の事例が報告され、本年度からポジティブリスト制度が施行されこともあり、フロアの注目を集めた。

前述のように今回の第34回協議会は、７年ぶりに東北支所の開催当番であったことから、協議会事務局の七戸管理チーム庶務担当と上席研究員を中心に前年秋から会場探し、仮予約、テーマ・プログラムの企画と各県の運営委員と調整しながらほぼ１年間かけて準備をしてきた。また、協議会当日の運営に当たっては、常勤・非常勤職員総出で受け付け等を分担し、名実ともに支所一丸となって行った協議会の運営であった。

協議会についての参加者アンケート（回収率66.4％）では、日常業務に対して全般的に参考になったとの回答が94％に達し、参加者の満足度が極めて高い協議会であったと総括できた。アンケートからは「本協議会を長く続けてほしい」という声も聞こえ、こうした参加者の反応は、主催者として準備に追われた支所職員のこれまでの努力を報い、今後の糧にもなる大きなご褒美と受け止めたい。

最後に、本協議会のために、ご尽力頂いた各県の運営委員各位、講師・発表者として参加頂いた各位、さらにフロアからの質問や討論を通して協議会を盛り上げて頂いた全ての参加者に対して、この場をお借りして主催者として心より御礼申し上げたい。

（研究管理監東北担当）